

やっと乗って来ました！‘ジェットスター・ジャパン’

今夏の、私のささやかな夏休みは、札幌1泊 LCC 体験ツアーです。

4月のとある日、ジェットスター・ジャパンのキャンペーン運賃に目がくらみ、とにもかくにも乗ってみようと思いたち予約をしておきました。

成田—札幌 片道2400円。LCC は本当にどこで儲けているんだろう？と、一応 LCC ウオッチングしている私でも、何だか申し訳ないなあと思ってしまうレベルの値段。

日帰りならば、1万円札1枚で札幌へ行くことが出来、美味しいものを食べて、お土産も買ってこられるよなあ、と妙に得した気分になったのです。

では、ジェットスター・ジャパンの貴重な体験を忘れないうちに成田から札幌への様子をお話してみましよう。

今回の旅程表

旅程表			
フライト詳細	ご予約日: 2012年 4月18日	旅程表発行日: 2012年 9月6日	
日付	便名	出発	到着
2012年 9月11日 (火) <u>フライトの変更</u>	GK115 Airbus A320 Starter 飛行時間: 1610 hr / 午後 4:10 1時間 40分	東京 2012年 9月11日 (火) 成田国際空港 第2ターミナル 国内線エリア	札幌 2012年 9月11日 (火) 1750 hr / 午後 5:50 新千歳空港 国内線ターミナル
2012年 9月12日 (水) <u>フライトの変更</u>	GK116 Airbus A320 Starter 飛行時間: 1840 hr / 午後 6:40 1時間 40分	札幌 2012年 9月12日 (水) 新千歳空港 国内線ターミナル	東京 2012年 9月12日 (水) 2020 hr / 午後 8:20 成田国際空港 第2ターミナル 国内線エリア

注: 時刻は各空港の現地時間です。

支払った金額(ひとり分)

運賃	成田—札幌 片道	2,400 円
	札幌—成田 片道	2,400 円
手荷物受託	成田—札幌 1 個/15k	1,400 円
	札幌—成田 1 個/15k	1,400 円
座席予約	成田—札幌 非常口	850 円
	札幌—成田 前方席	400 円
クレジットカード料金		400 円
	合計	9,250 円

予約は意外と頭を使う

パソコンでの予約に抵抗のない私でも、初の LCC、予約を完了するは手間取ってしまいました。躓いたのは、やはり付帯運賃。荷物を預けるか預けないかを迷っているうちに、せっかく入力した予約がタイムアウトしてしまい、再入力の憂き目にあってしまいました。これは、けっこうなダメージでしたが、そんな気持ちを元気づけてくれたのも 2400 円という運賃。気を取り直して再入力開始。付帯運賃をどう使うのか、予約画面で迷ってはいけない、LCC に乗るときは、事前に決めておいて一気に入力が必要だと学習をしました。

これには後日談もあり、手荷物をやはり預けようと、出発前に訂正入力を行った時は、お土産が増えるかもしれないという帰りだけのつもりが入力箇所を間違え、行きの区間で追加をしてしまい、それをパソコン内でキャンセルや、復路に変更ができないので、暗い気持ちになりました。それでも、もしかしたらと、予約センターに電話するも繋がらずで、いい加減面倒になり往復とも預けることになりました。これで、手荷物受託料 1400 円(予約と一緒に 1,000 円)を余分に支払ったことになりましたが、よく考えれば運賃の半額以上の値段・・・アー損しちゃったというのが正直な感想です。

LCC は、付帯運賃で儲けている、何だかそれがよく分かった出来事でした。

「時間切れです」と悲しいお知らせの予約ページ画面



セッションが切れました

暫くの間休止状態だったためセッションがアイドル状態になりました。セキュリティ上の保護のため、リクエストはキャンセルされました。下部のやり直しボタンをクリックして下さい。

再開する

自動チェックインは手間取ってはいけない

GK115 NRT/SPK 1610/1750 これが私の乗るジェットスター・ジャパンのフライト。

2時間前からチェックインが開始するというので、その時間を目指して成田空港へ到着。

4台の自動チェックイン機は、まだ人が閑散としており並ぶこともなくチェックインをはじめてみました。予約番号さえ入力すれば、後は機械の言うとおりに確認ボタンを押していけばよく、とてもシンプルな作りです。しかし、今回は、ちょっと画面を写真に撮りながら進めていたので、途中で「もっと時間がかかりますか」と機械に聞かれてしまいました。「はい」というボタンを押すときに、時間がかかってすみません、という気持ちになり、思わず、後ろで待っている人がいないか確認をしてしまいました。

自動チェックイン機は手間取ってはいけない、有人カウンターより、だからお前は早いんだね、と妙に感心してしまいました。因みに成田出発時の手続きで、行きと帰りのチェックインが終わり、搭乗券が2枚出てきました。この搭乗券は、薄いのですが1万円札より大きいので、折ってしまっても大丈夫なのかちょっと悩むところです。バーコードで読み取るタイプのようなので、もう少しコンパクトにすれば紙代も浮くのにと考えた私です。



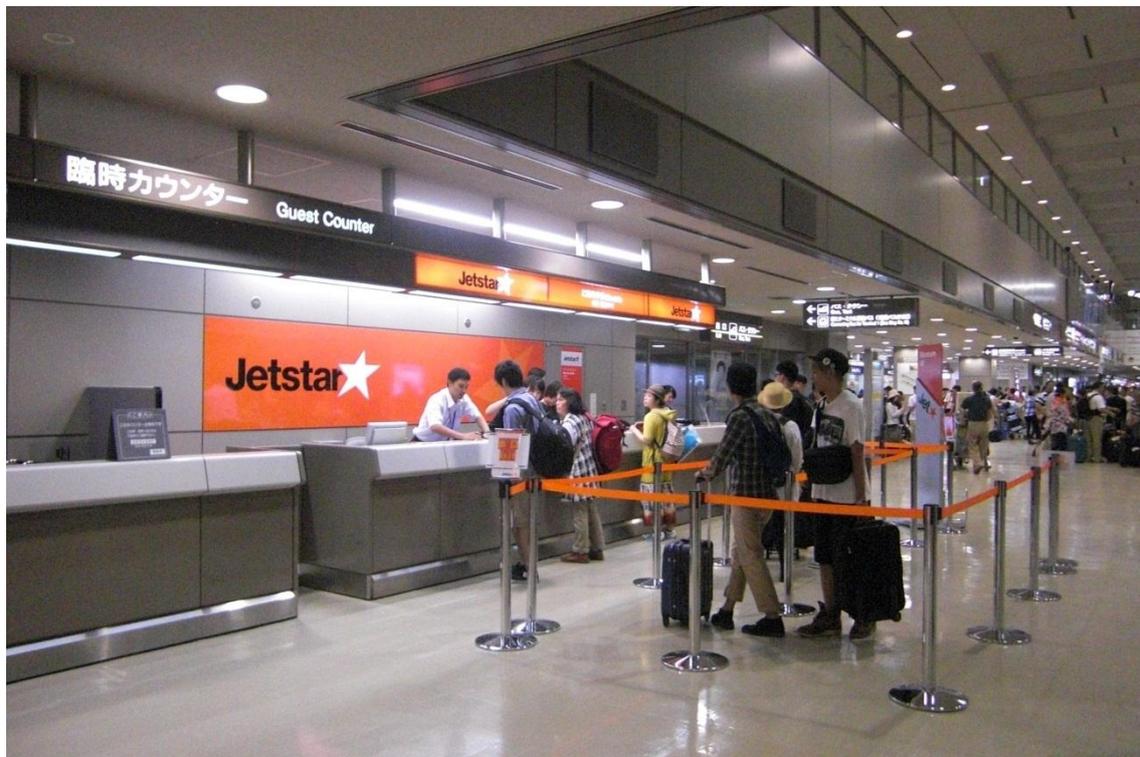
自動チェックイン機はワンタッチ式で、問われるままに、素直に進めば簡単です



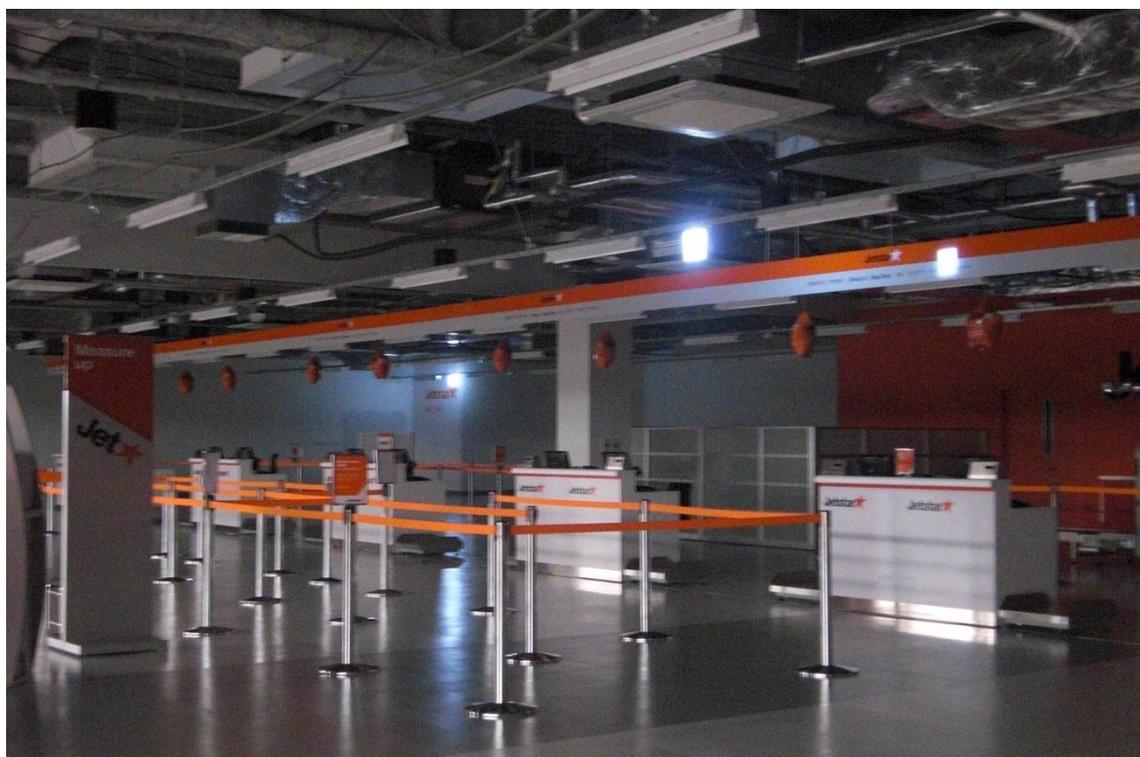
成田でチェックインした往復分の搭乗券(2人分)



自動チェックインの前の有人カウンター



⑨成田のチェックインの場所は 12 日から移動しています。



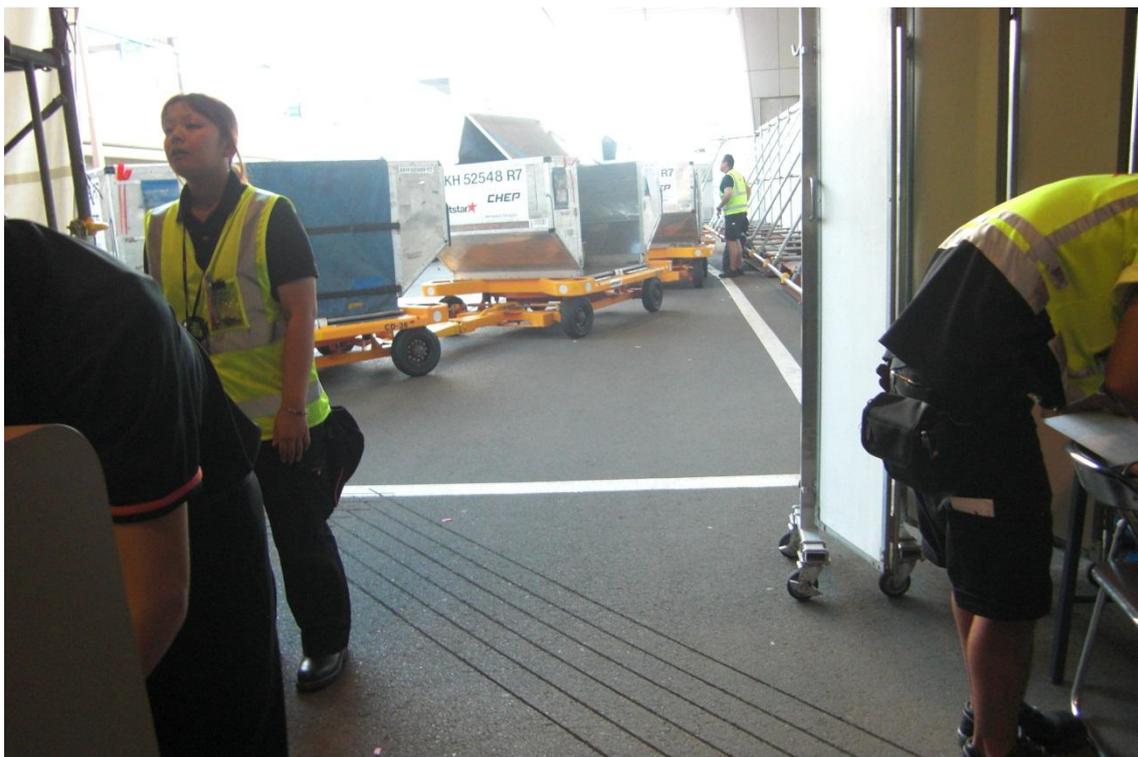
手荷物預けは一人一人でもよい？！

セキュリティ上、個人の荷物が特定できるように一人一人の手荷物を確認するのは当然なことだと思っていましたが、国内線はそうではないらしい。(成田は同伴者一緒に受託するよう声をかけていました。一方、札幌では一人一人に確認していました)これは本当に意外でした。

グランドハンドリングで手間暇がかかるのが、セキュリティ上の問題。手荷物の受託を含めて、これが誰の荷物か特定させておく対応をしています。また国際線ではパスポートデータの入力などで、ひと手間多いのですが、LCCのように予約した座席を持っているお客さまが多いのであれば、一人一人を単純にチェックインすればよいだけの話で、纏めてチェックインをするよりも、ずっと早いと思うのですが。。

今回は、たまたまだったのか、その前の手荷物の保安検査や、手荷物搭載時の荷物札の搭載管理のスタッブシートもきちんとしていただけに、カウンターでのこの取り扱いは、唯一気になるハンドリングの仕方でした。

手荷物預け 右のヒト—荷物の番号をスタッブシートに整理中、奥には搭載用のコンテナ



非常口の搭乗券にジャジャジャーン！

バスゲートのボーディングパスリーダーは、ムーバブル。ちょっと見には AED のケースみたいです。スーパーのレジのように、色々な搭乗券のバーコードを読み込んでいく方式です。

で、1C の私のボーディングパスにピッとかざしたら、‘ジャジャジャーン’ってカジノの当たりのような音楽が流れて、ビックリしましたあ。今までの航空会社だと‘ピンポン’とか上品な音がする訳で、確かに‘ジャジャジャーン’というのは絶対に聞き漏らしががないけれど、最初知らないと驚きます。ゲートのスタッフは「この席は非常口ですから緊急の際のお手伝いをお願いします」と必ず言うようになっているようで、成田でも札幌でも言われました。それはとても大切な事なので、言ってもらおうと「はい分かりました」って思うのですけど、機械的に言われても伝わらない、というのが正直な感想でした。

現に成田では何言われているか分からなくて「何ておっしゃいました？」って聞いてしまったら、怪訝な顔されちゃいました。‘ジャジャジャーン’って派手に明るいワーニングを使っているなら、せめて、もっと明るく言えば効果的なのにと考えた私です。

AED のような細長いボーディングパスリーダー ・沖止めに行くのでスタッフは専用のベスト着用



沖止めゲート片隅で充電中のボーディングパスリーダー、とてもコンパクトです



お馴染みになりました搭乗タラップ、オレンジ色はまるで南の島に来たような解放感



航空機のそばのスタッフも半ズボンでサングラス、酷暑の夏に制服が良く似合う



すぐ近くではエアアジアジャパンが搭乗中、あちらのタラップの方が立派



成田の滑走路はやっぱり混んでいた

GK115 の出発時間は1610。ドアクローズは定刻より少し早い 1605。この便は札幌からの折り返しがあるので遅れるわけにはいかない、ジェットスターのスタッフではないけれど、密かにひとまずドアクローズしてよかったって、思っていたのです。しかし、そこからが離陸するまでが長かった。キャビンクルーはもうそんな状態はなれているのか、コックピットに飲み物をサービスしに行ったり、手荷物の収納状況を確認したりとかテキパキと働いていました。1 番前の席は離発着時に手荷物を膝の上に置いておいてもいけないので、ハンドバックはしっかり上の棚に収納させられました。でも、貴重品手放すのはちょっと心配でしたけど。

1625 突然にキャプテンアナウンスが入りました、「あと 2 機の到着便をまって、それから離陸します。」そうかあ、やっぱり 16 時台の成田の到着便は多いからねー。地上で一生懸命定時性を守ろうとしても、施設の混雑には勝てません。で、GK115 が飛び立てたのはドアクローズしてから約 30 分後の 1635 分くらい。(この辺待ちくたびれて寝てしまい、正確な時間がとれていません) 成田の滑走路は、やっぱり混んでいました。

キャビンクルーは、この装置でチェックをしていました



1列目のアップフロントシートの400円は安い！

安い運賃のLCCには乗って見たかった私ですが、狭い機内は苦手で、LCC＝狭い座席ということにとっても抵抗感があり、中々乗ることが出来ませんでした。今回札幌まで予約した座席1Cは850円支払えば予約の出来る非常口でした。キャビンクルーシートと向い合せになるので、機内の動きも色々わかってなかなか面白い座席です。

しかし、復路の1Dは400円で同じくらいの前方の空間が保てます。1ABCと違うのは、前にギャラーがあるので、簡単なパーティションで仕切られている事。

850円か400円か？ その違いに納得ですが、個人的には快適性からいっても充分なアップフロントシートの1DEFシートがお勧めです。

とここで、もう一つLCCのシステムに注目したいのですが、座席のコントロールはいたってシンプルなようで、キャンペーン運賃であろうがなかろうが関係なく事前予約できることには驚きました。ということは、LCCで最も快適な座席を安く予約する為には、なんといっても早めの予約が必要なようです。

ジェットスター予約のホームページから

東京(成田) → 札幌(新千歳)
1 hrs 40 mins

すべての座席が割り当てられました！ご予約を続ける

Row	A	B	C	D	E	F
1	×	↑	↑	★	×	×
2	×	×	×	★	★	★
3	★	★	★	★	★	★
4	★	★	★	★	★	★
5	×	★	★	★	★	★
6	×	×	×	×	×	×
7	×	×	×	×	×	×
8	×	×	×	×	×	×

エクストラ・レッグルーム
¥850.00
このフライトの一名様あたり
ご利用条件が適用されます

アップフロント
¥400.00
このフライトの一名様あたり
ご利用条件が適用されます
非常口列のフロントシートで

スタンダード
¥250.00
このフライトの一名様あたり

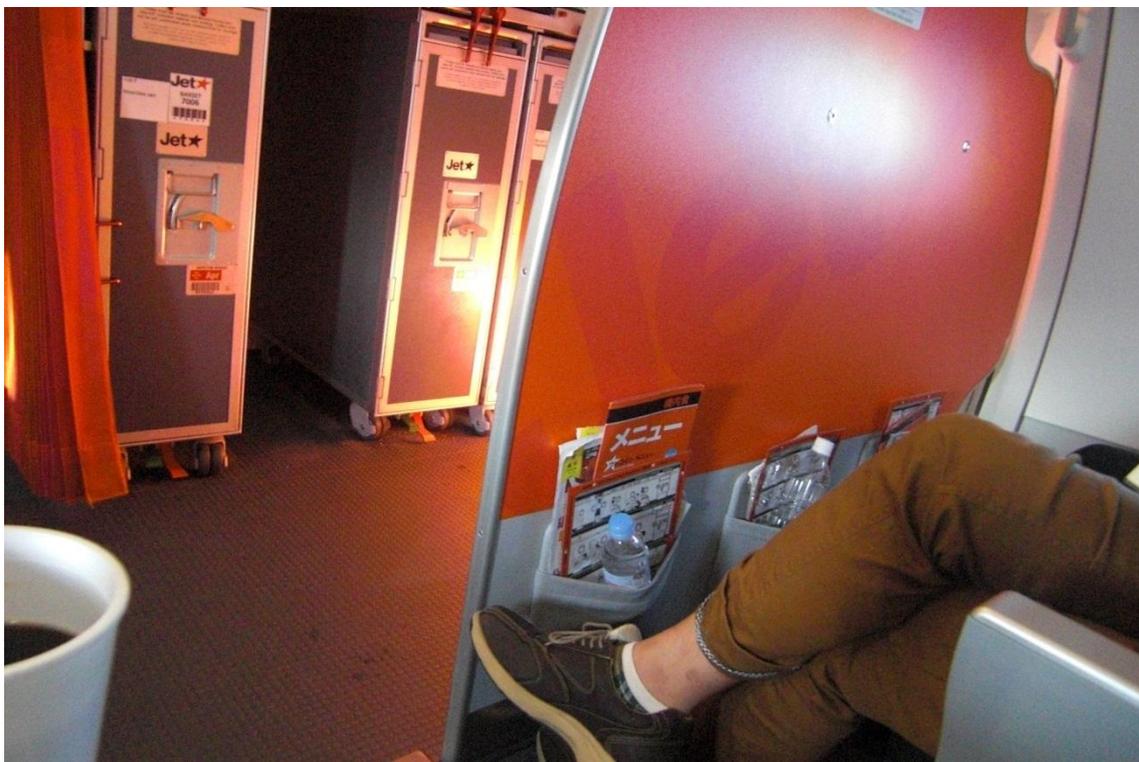
機内: 1ABC 非常口の前はキャビンクルーのジャンプシート



機内: 1ABC 非常口座席の前は広—い空間



機内: 1DEF アップフロントシート 前がギャレーなのでパーティションあり



コスト削減はまだままだできる？！

機内でコーヒーを注文してみました。200 円でインスタントコーヒー(たぶん)が大きめの保温カップで提供されました。

ミルクと砂糖とマドラーと一緒に、どここまでは普通ですが、この写真如何でしょう？

何故か、ミルクと砂糖とマドラーと紙ナプキンが、かなりしっかりしたプラスチックの入れ物に入っています。

2つを手渡された瞬間「ん・・・？！これって・・・」 LCC はあらゆる面でコスト削減をしていると聞いているので、どうなんだろう？ って思うのは私だけでしょうか。

はっきり言って、これは勿体ない・・・いやいや、その前に、お客さまとしては、幅の狭いテーブルに、このスペースをとられるのは邪魔以外の何物でもありません。



LCCでの移動は新幹線に乗る感覚だった

成田での出発に時間がかかったにもかかわらず札幌へはほぼ定刻の1750過ぎに到着しました。札幌では0番ゲートに到着。簡素だけれどまだ新しい施設を通過して到着へと進みます。手荷物もすぐに出てきて、到着して20分後には札幌行の電車に乗ることが出来ました。

札幌空港の手荷物預かりターミナル 勿論ここもスタッフはいません



今回のジェットスター・ジャパン搭乗を振り返ってみると、2つのことがとても印象に残りました。一つは、スタッフがみな若い、ということ。

そして、もうひとつがLCCは、飛行機特有のエンジン音さえなければ新幹線に乗っているような雰囲気だということ。言い換えると、今までの飛行機に乗るというワクワク感を超え、もっと実務的な移動手段になっていると感じました。機内は静かで、落ち着いていました。新人のキャビンクルーもいたようですが、まだ就航間もない航空会社ですから、それはそれでよかったような気がします。乗客も、LCCへ期待しているものが、格安な運賃、安全で定時性の確保された乗り物、清潔感ある快適な空間(これは個人差があるでしょうが)の提供でしょうか。

確実に日本の空をLCCは変えはじめているな。そう確信できたショートトリップでした。

終わり (Y. T)